

もの言う牧師のエッセー 第81話

「シェールバブル」

日本では鉱山学部と言え、せいぜい秋田大学に残っている程度だが、世界では同学部の卒業生は石油採掘現場の監督として活躍しており、ここ米国でもモテモテで、年収1000万ドルを超える者が少なくないという。

今やシェール革命の真っ只中にある米国の中でも最もホットな地域は、“失業率が0%になった町”で有名なノースダコタ州ウィリストンと、古くからの石油の本場テキサス州ヒューストンである。特にテキサスは、元来メキシコ湾海底油田を含む“在来型”油ガス田で米国を代表する地域であったが、“非在来型”資源であるシェールガス開発でも先行し、次々と新たなシェール層を開発、経済効果は格段に高まり、おかげで地元オフィスビル賃料が一気に倍に値上がるなど景気はすこぶるいい。しかも場所柄パイプライン網がすでに充実しているため、余計な設備投資が不要なことも投資家には魅力的なため、権益価格が高騰しバブル状態になっている。

しかし、何と言ってもこのバブルを作り出しているのは、「地元地主に莫大な富をもたらすシステム」である。通常、開発業者は地主から3年程度土地を借り、採掘権を含むリース権を得るが、地主にはこのリース権売買収入だけで数百億円が転がり込み、さらに開発業者の採掘収入25%がロイヤリティとして支払われるため、もし日量4000バレルなら毎日1000万円が地主のポケットに入る。もちろん業者が増産すれば彼らの“ポケットマネー”は更に増える。彼ら地主たちと、採掘会社と石油メジャー。金と利権に欲の皮の突っ張った輩が群がりバブルは膨らんで行く。だが、キリストは警告する。

「ある金持ちの畑が豊作であった。そこで彼は、心の中でこう言いながら考えた。『こうしよう。あの倉を取り壊して、もっと大きいのを建て、穀物や財産はみなそこにしまっておこう。そして、自分の魂にこう言おう。魂よ。これから先何年分もいっぱい物がためられた。さあ、安心して食べて、飲んで、楽しめ。』しかし神は彼に言われた。『愚か者。お前の魂は、今夜お前から取り去られる。そうしたら、お前が用意した物は、いったい誰のものになるのか。』自分のために貯えても、神の前に富まない者はこの通りです。』

ルカの福音書 12章 16-21 節

と。神を敬わず、感謝もせず、自分で何でも出来ると思っている人間に、神は時として手を下す。またしてもバブルに狂騒する人々。危なっかしくて見てられない。 2013-5-26

